

議会で指摘した課題に関する進捗状況

「ごみ焼却施設の運営効率化」「委託業務の見直し」等、私の指摘・提案が、着実に市政に反映されています。

■「ごみ焼却施設の運営効率化」の進捗状況

ごみ焼却施設を管理・運営する施設操作課では所属職員68名に対して、一人当たり月額10万円、課全体で年間・約8,100万円もの残業代が発生していました(2009年度実績)。これは同課の業務内容・勤務体制に

- 勤務時間にシャワー等の時間が含まれている
- 一勤務当りの拘束時間・7時間45分のうち3時間が引継ぎ・休憩・シャワー等に費やされており、本来の業務である、ごみ焼却施設の管理・運営に従事する時間は4時間45分だけ
- 国内・同規模施設の90%近くは二交替制勤務を採用しているが、本市は三交替制を採用しており引継ぎ等に要する時間が著しく多い

等の問題が存在したことによるものです。

こうした状況を踏まえ、私は2010年6月議会において問題を指摘すると共に、業務内容・勤務体制の是正を求めました。その後、市は業務内容の見直しを進め、昨年10月には勤務体制も三

交替制から二交替制に改めました。こうした取り組みの結果、2009年度比で同課の職員数は5名少ない63名に、残業代は約2,900万円少ない約5,200万円に削減されました(2012年度実績)。

■「委託業務の見直し」の進捗状況

私は発注規模の拡大による入札の競争性向上・契約価格低減を実現するため、機械警備・清掃・機械設備の保守点検・ごみ収集等、施設の維持管理業務を

- 同種業務は担当部署に関係なく、統合して発注
- 契約期間は複数年化

するよう求めてきました。指摘を受けた市が、全庁の機械警備業務を統合し、契約期間を5年間に改めて入札を実施した結果、6千万円以上の委託費が削減されました。

こうした経緯を経て市は来年度以降、施設の維持管理に関わる委託業務ほぼ全てについて、同様の条件での入札を段階的に進める考えを明らかにしました。今後、施設管理に関わる業務委託費の大幅な削減が期待できます。

■諸事雑感

紙面に限りがあるため、全てを書き尽くすことはできませんが、上に挙げたもの以外にも「システム運用に必要なホスト・サーバーの賃借費用削減」「職員用ノートパソコンの配布基準適正化」「公用車の運用基準見直し」「市が委託して実施する労働相談の運用見直し」等、これまで指摘してきた多くの課題について目に見える成果が出ています。引き続き、市政改善のための具体的な指摘・提案を続けてまいります。

渋谷 祐介:西宮市議会議員/三期目

- 昭和48年12月26日生まれ。B型・山羊座。
- 妻・長男・次男の四人家族。
- 市立浜脇小・浜脇中・私立明星高・京都大学経済学部卒業。
- 平成8年4月より平成16年8月まで阪急電鉄株式会社勤務。
書店ブックファースト・アズナス(コンビニ)等、小売事業を中心にキャリアを積む。
- 平成16年11月、西宮市議会議員補欠選挙にて初当選。現在三期目。
- 好きな言葉:一利を興すは一害を除くに如かず、大道無門
- 好きな作家:司馬遼太郎、浅田次郎、黒川博行、篠田節子、山崎豊子 他多数
- 尊敬する人物:織田信長、大久保利通

しづや祐介事務所:〒662-0927 西宮市久保町1-16-202

しんちよく

■詳しい日々の活動等をブログでご覧頂けます。
<http://y-shibuya.blogzine.jp/blog/>
(「しづや祐介」で検索！)

■市政に関する、皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。ご連絡は、以下までお願いします。
★e-mail:shibuya@room.ocn.ne.jp
★tel:0798-22-7895
(恐れ入りますが、不在時は、留守番電話にメッセージをお願いします。)

西宮市議会議員

しづや祐介

市政報告35号×2013年10月

私たちが暮らす、
西宮の未来のために。

浜脇小・浜脇中・明星高・京都大学卒
元阪急電鉄(株)勤務 行動する政治

TOPICS&CONTENTS

～今号の目次&内容～

- ◆2012年度決算のご報告/
決算の概要と、私の考え
- ◆アサヒビール工場跡地/
計画概要が発表されました
- ◆中央病院の移転・新築/
「移転・新築」が目的ですか??
- ◆高木地区の新設校整備/
決定事項をお知らせします
- ◆進捗状況のご報告/
議会での指摘の進捗状況

2012年度決算のご報告

2012年度決算の概要と、私の考え。

■ 堅実な行政運営を！

9月議会において、2012年度の決算が報告されました。歳入総額2393.8億円、歳出総額2332.5億円、実質収支は57億円の黒字。一見、順調な決算に見えますが、「毎年必ず出て行く支出」が「毎年入ってくる自由に使える財源」に占める割合を表す指標である経常収支比率は95.1%にのぼりません。これは家計に例えると「収入の95.1%が食費、ローン返済、教育費、電気・ガス・通信費等の固定的な支出で消えてしまい、自由に使えるのは残り4.9%だけ」という状況にあたります。

経常収支比率の標準値は80%程度とされていますが、本市の経常収支比率が95%を下回ったことは阪神淡路大震災後、一度もありません。本市財政は著しく逼迫しており、巨額の投資に耐えられる状態ではないのです。このような財政状況にも関わらず、市はアサヒビール西宮工場跡地の購入・施設整備に強い意欲を示しています(関連記事・中面)。

今後も、厳しい財政状況が続くのは確実です。限られた財源を有効に活用するため、事業の優先順位を十分検討し、効果的・効率的に予算を配分するよう指摘・提案を続けてまいります。